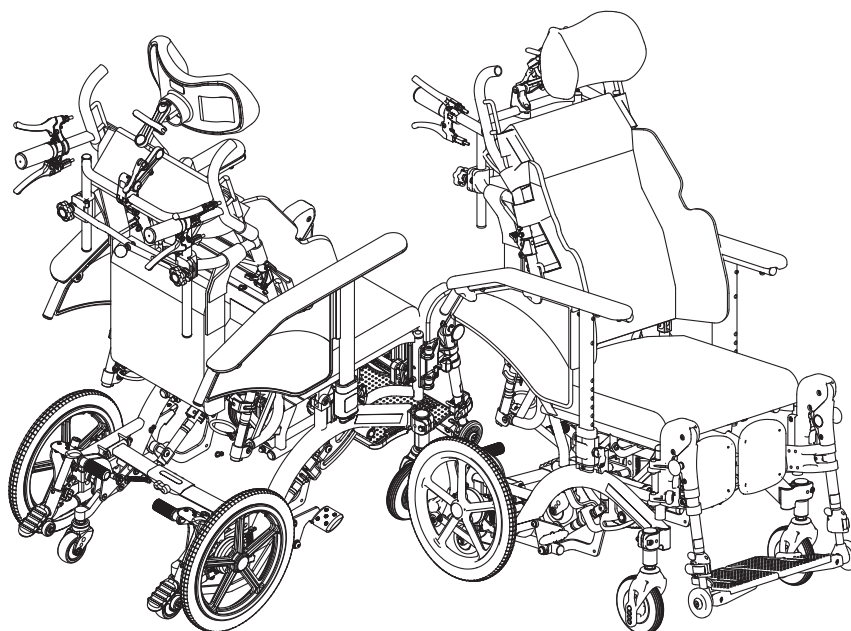


取扱説明書

車いす KK-T648MB

保証書付

7F13063600A1



まえがき

このたびは、車いす KK-T648MB (以下、車いす) をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この「取扱説明書」には、車いすを安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しています。

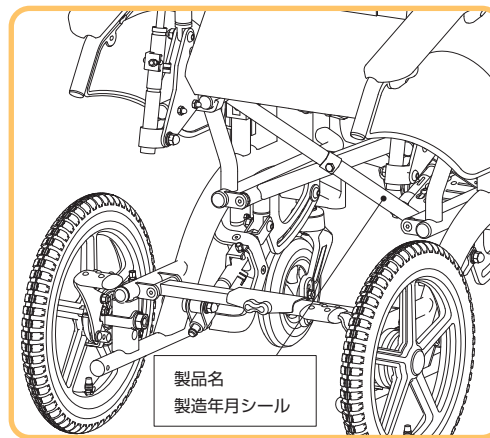
- 車いすをお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。(バックサポート後のポケットに入れておいてください)
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- 動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。特別なものを除き、この「取扱説明書」では表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接パラマウントベッドまでお問い合わせください。

販売元：パラマウントベッド株式会社
製造元：株式会社松永製作所

この車いすは車載を前提に設計されておりません。
この車いすは車の座席としての強度を考慮しておりません。
座席として使用した場合には車載時の負荷により、車いすが破損する場合があります。

車いすが、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。
健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の型式をご確認ください。型式は、下記位置に表示してあります。



付属品

以下の物が同梱されているか、確認してください。



取扱説明書



六角レンチ
(対辺4mm)



六角レンチ
(対辺5mm)



サービススパナ
(13mm)

●万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または弊社にご連絡ください。

- お買い上げの車いすは改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目次

安全にお使いになるためのご注意	1
寸法一覧	3
各部の名称	4
機能説明	5
ポケットの取り付け方	5
安全にお使いになるためのご使用方法	6
車いすの拡げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
車いすの乗り方・降り方	8
介助の仕方	9
その他の注意事項	11
各部機能の使用方法	11
ブレーキの使用方法	11
リフトアップの操作方法	12
ティルティングとリクライニングの方法	13
フットサポートの高さ調整	15
フット・レッグサポートスイングアウト	15
フット・レッグサポート スイングアウト&エレベーター	16
アームサポートの使用方法	18
ヘッドサポートの使用方法	18
張り調整シート	21
上部胸椎サポートバッド・三角パッド	21
転倒防止	22
車いすのオプション	22
車いすのお手入れの方法	23
シートのお手入れの仕方	23
保管場所	23
車いす点検シート	24
廃棄方法	25
もしこんなトラブルが発生したときは	25
空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法	26
アフターサービスについて	27
保証書	

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



- 故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。
転倒・転落事故、ケガ等の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーにかばん等を引っ掛けしないでください。
ロックが解除され、転倒・転落事故等の原因となります。
- リフトアップ時には乗り降りしないでください。
駐車ブレーキがかかっていないため転倒事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 階段、エスカレーター、段差のあるところ、砂場、砂浜、河原、ぬかるみなどの悪路では使用しないでください。
転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- MRI室で使用しないでください。
非磁性ではありません。磁気に反応し、大変危険です。
- ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。また、フレームの強度が低下し、車いすの破損の原因となります。

(強制)



- バックサポートの折りたたみのロックピンが、カチッと音がして、完全にロックされていることを確認してください。
転倒・転落事故等、ケガの原因となります。
- 側溝の格子溝や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。
車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。
- ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。
ティルトレバーを握った瞬間、使用者の体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、使用者に不安感を与えないようにしてください。
- ティルト操作の時は、必ずドラロック(フットブレーキ)をロックし、車椅子が動かない事を確認してから行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニング操作の時は、必ずドラロック(フットブレーキ)をロックし、車椅子が動かない事を確認してから行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポート調整の時のボルトは、必ず締めてください。
フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故等の原因となります。
- フットサポートの高さは、地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり、急に車いすが止まり、転倒事故等の原因となります。
- スイングアウトを戻した時は、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せた時、外れて足をケガする原因となります。
- ノブボルトまたはe-pinは必ずしっかりと締めてください。転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。
転倒防止が外れ、転倒・転落事故、ケガ等の原因となります。





注意

(禁止)



- バックサポートに重い物を引っ掛けしないでください。
車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを払げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。

<p style="text-align: center;">(禁止)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。 使用者が車いすから転落して、事故等の原因となります。 ■車いすを横向きにして、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。 ■リフトアップ操作時には、車いすから手を離さないようにしてください。 車いすが動き、危険です。 ■リフトアップした状態で段差の乗り越えや、凹凸のある路面の走行をしないでください。 必ず平坦な路面で、短距離の移動にご使用ください。 ■車いすで荷物を運んだりしないでください。 ■火気の近くに置かないでください。 シートが燃え火災の原因となります。 ■急ブレーキ、急発進、急旋回をしないでください。 使用者が前方へ転倒・転落する恐れがあります。 ■縮み止め・ヘッドサポート部を持って走行しないでください。 転倒・転落事故、ケガ等の原因となります。 ■フットサポートの角度調整の時、隙間がある状態で使用しないでください。 フットサポートが外れ、ケガ等の原因となります。 ■調整後は、マクラがしっかりと固定されているか確認してください。 ■指定されているボルト以外は調整しないでください。 マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。 ■ヘッドサポートを持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。 ■ヘッドサポートを押手として使用しないでください。
<p style="text-align: center;">(強制)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか確認してください。 パイプが曲がったり、転倒・転落事故等の原因となります。 ■保管する場所には十分注意してください。 長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。 ■車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。 車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。 前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転落・転倒事故等の原因となります。 ■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。 車いすが急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。 ■移動中、つま先や、サイドブレーキペダルが障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■フットサポートに足が乗っているか確認して走行してください。 ■必ず固定されている場所を持ってください。ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。 ■車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、使用者の転落には十分に注意してください。 ■リフトアップした場合には、ドラロック(フットブレーキ)がロックされていても、主輪が浮いているため、車いすが動きます。 人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車いすが動かないことを確認してから行ってください。 ■必ず両側をリフトアップしてください。 片側だけリフトアップするとバランスを崩し転倒、転落事故の原因となります。 ■ブレーキペダルとリフトアップペダルを間違えないように注意してください。 リフトアップ操作時にはフットブレーキが効かず、車いすが動きます。 ■ブレーキペダルを操作するときは、ブレーキペダルの近くに足や物がないか確認してから操作してください。 ペダルと地面で足を挟まれたり、正しくブレーキが掛からない・解除できない原因となります。 ■リクライニングレバーやティルトレバーと制動用ブレーキレバーを間違えないようにしてください。 不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。 ■上部胸椎サポートベルトを取りつける際は、ワイヤーと一緒に固定しないように取り付けてください。 不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。 ■介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。 バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。 ■アームサポートを下ろす時は、肘パッドの内側に指を挟まないようにご注意ください。 ■マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。 フレームの破損の原因となります。 ■マジックベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。 衝撃などで転落し事故等の原因となります。 ■マジックベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。 接着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故等の原因となります。

寸法一覧

品番	キャスト(インチ)	大車輪(インチ)	前座高(mm)	後座高(mm)	シート幅(mm)	シート奥行(mm)	アームサポート高(mm)
KK-T648MB	5	12	430	430	400	380	0・140～300

※座クッションの奥行は470mmです。

品番	バックサポート高(mm)	フット長(mm)	全長(mm)	全高(mm)	全幅(mm)	折りたたみ幅(mm)	重量(kg)	使用者最大体重(kg)
KK-T648MB	600(650)	300～	935	1165	535	400	29.3	100

※寸法値は、パイプ上の高さです。

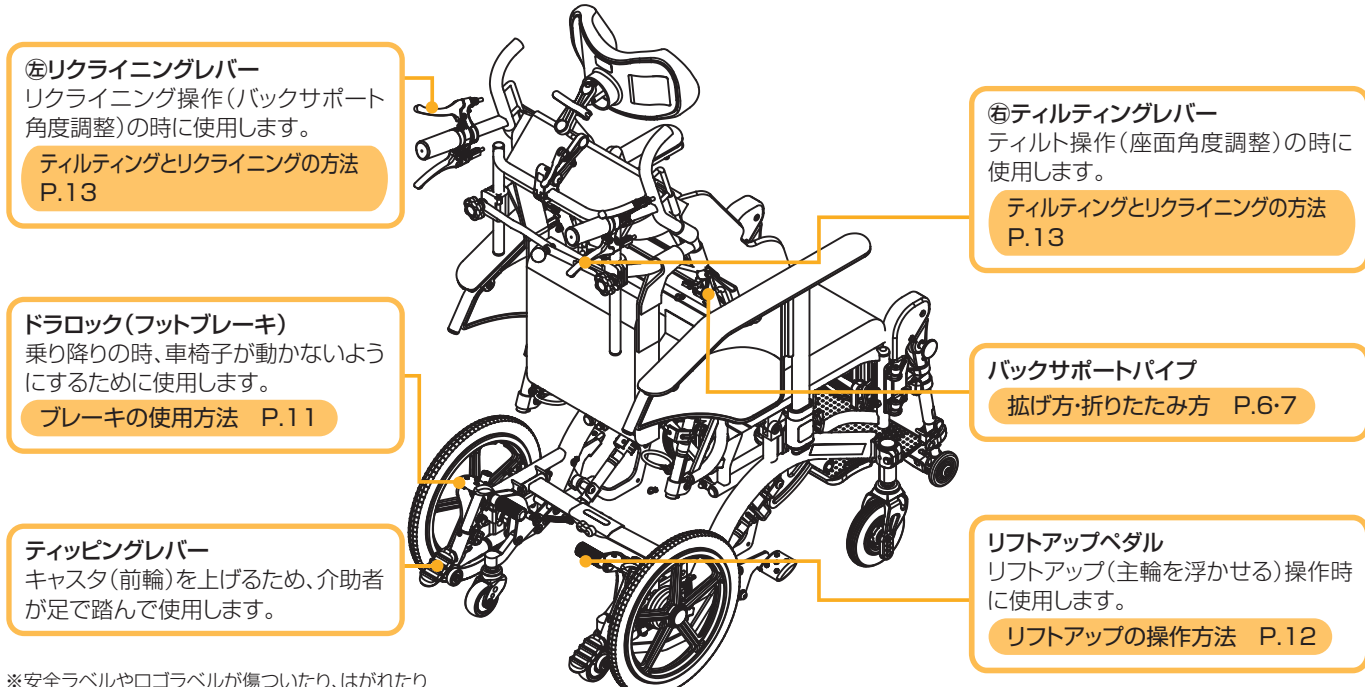
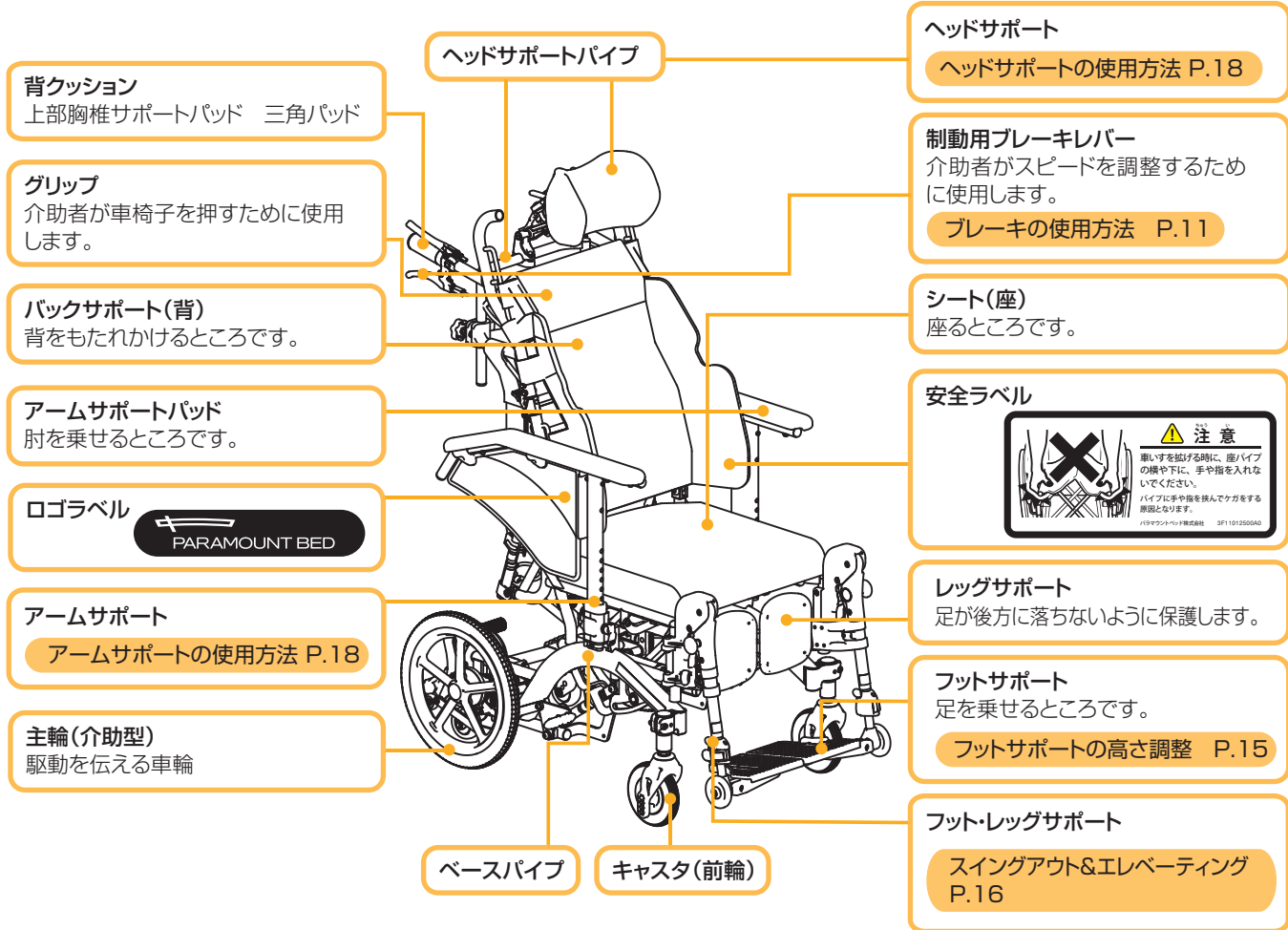
※全高にヘッドサポートは含まれておりません。

※アームサポート高は、20mmピッチです。

◎改良のため、予告なしに仕様を変更する場合があります。

品番	ティルト角度	リクライニング角度	ティルト、リクラ 最大時寸法	全長(mm)
KK-T648MB	0～30°	90～125°		1500

各部の名称

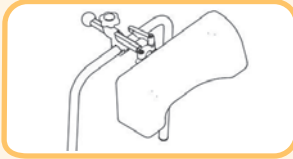


※安全ラベルやログラベルが傷ついたり、はがれたりした場合には、販売店もしくはパラテクノコールセンターから新しいラベルを取寄せ、貼り直してください。

機能説明

〈ヘッドサポート〉

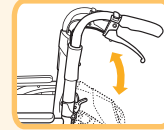
頭部を支持します。上下・前後・左右・角度を調整できます。



〈バックサポート〉

折りたたみ

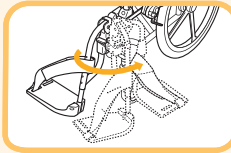
背もたれを折りたたむと、自動車等への積み込みが容易に行えます。



〈フット・レッグサポート〉

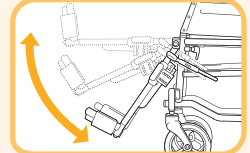
スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、トイレ等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。



エレベーター

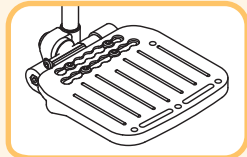
フット・レッグサポート部の角度が調節可能です。脚が硬直・変形している方に最適です。



〈フットサポート〉

アジャスタブルフットサポート

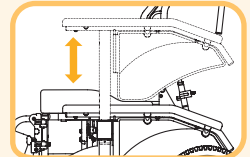
フットサポートの位置を前後調整できます。また角度も変更できます。



〈アームサポート〉

高さ調節

アームサポートの高さを調節して使用者の身体状況に合わせることができます。また座面と同じ高さまで下げることができるので、ベッド等への移乗時に大変便利です。



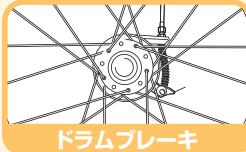
〈ブレーキ〉

介助者が走行中(下り坂)の減速・停止に便利です。



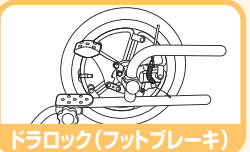
制動用ブレーキレバー

介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



ドラムブレーキ

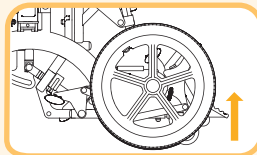
ドラムブレーキと一体化したブレーキです。介助者が足で操作します。



ドラロック(フットブレーキ)

〈リフトアップ〉

車いす主輪を浮かせることで、真横にも移動できます。ベッドへ近づく時に何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

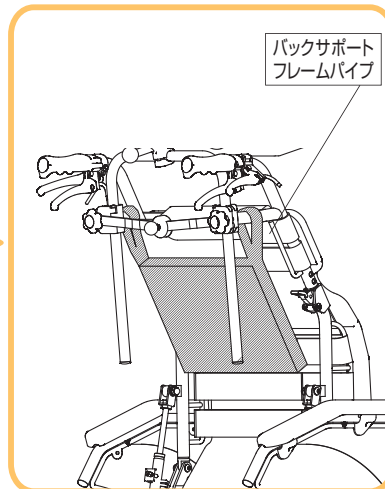
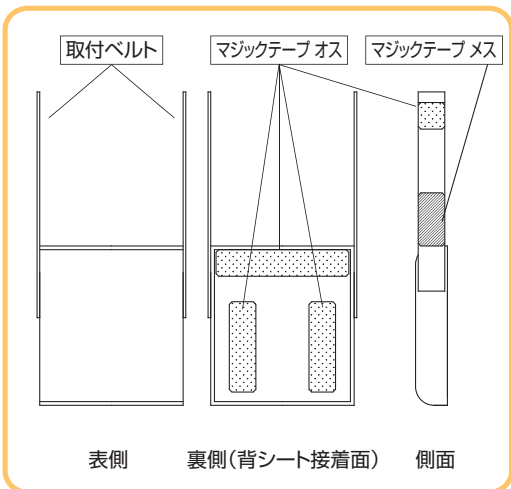


ポケットの取り付け方

① ポケットが同梱されていることを確認してください。

ポケット耐荷重 1kg

② バックサポートフレームパイプに左右取付ベルトを巻き付け、マジックテープで固定してください。ポケット裏側のマジックテープを、車いす本体背シートに貼り付け固定してください。



⚠ 注意

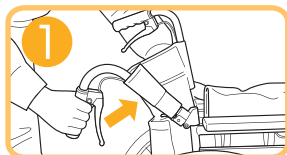
- ベルト取り付け時、ワイヤを巻き込まないようにご注意ください。(制動用ブレーキ、ティルト・リクラの制動に悪影響を及ぼす場合があります。)
- ポケット裏側のマジックテープが、車いす本体背シートに貼り付いていることを確認してください。(外部障害物との引っ掛かりや駆動輪への巻き込み原因になる場合がございます。十分ご注意ください。)

安全にお使いになるためのご使用方法

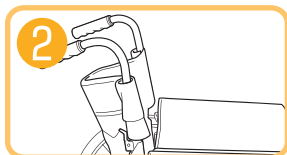
車いすの広げ方

*折りたたんだバックサポートを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行くと、バックサポートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロックできなくなる場合があります。
また、背シートの破損につながるので行わないようにしてください。)

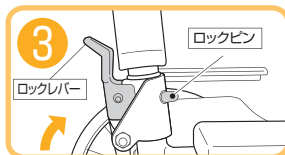
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げます。



② バックサポートを両側起こします。



③ レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ている事を確認します。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音かして、ロックピンが完全に出ていることを確認してください。
(転倒・転落の原因となります。)



警告

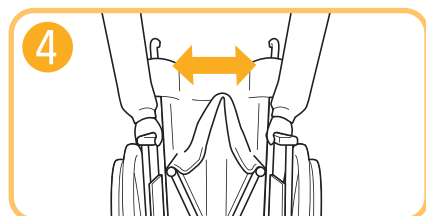
●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
(ロックが解除され、転倒・転落事故の原因となります。)



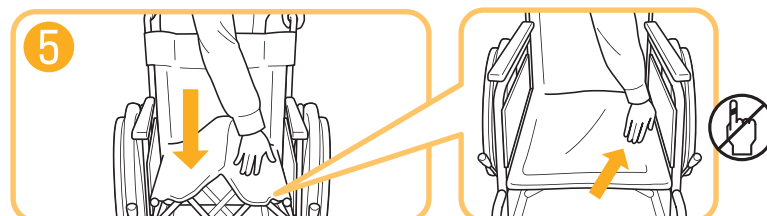
注意

●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

④ 車いすの後方に立ち、左右のアームサポートを持って両側に広げます。



⑤ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



注意

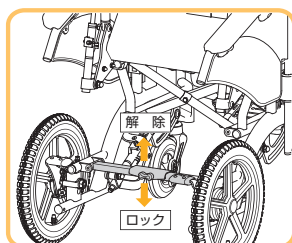
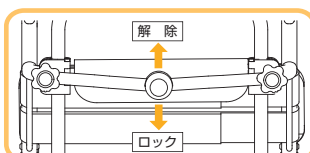
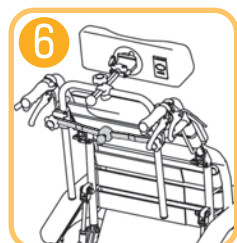
●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)



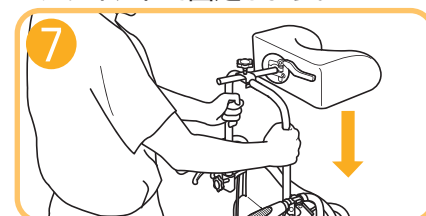
注意

●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故及び故障の原因になります。)

⑥ 縮み止めを押し下げてロックします。



⑦ ヘッドサポートを差し込み、左右のノブボルトで固定します。(※P.18注意参照)



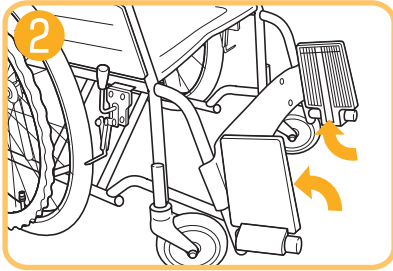
注意

●縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。
(強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。)

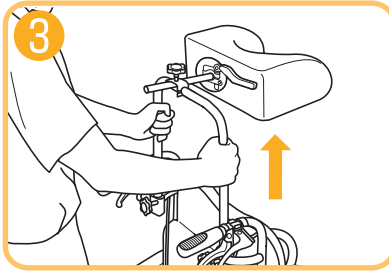
車いすの折りたたみ方

① 座クッションを取り外します。

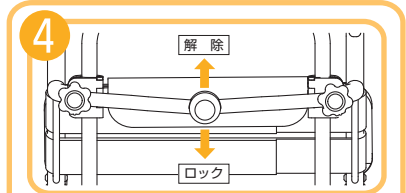
② フットサポートを跳ね上げます。



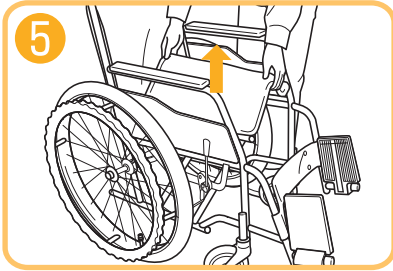
③ ノブボルトを緩め、ヘッドサポートを取り外します。



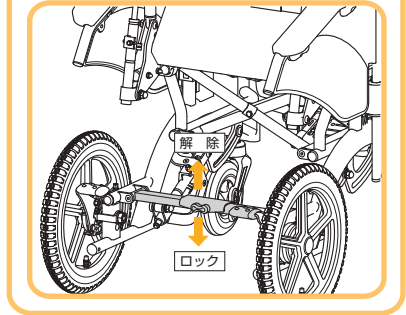
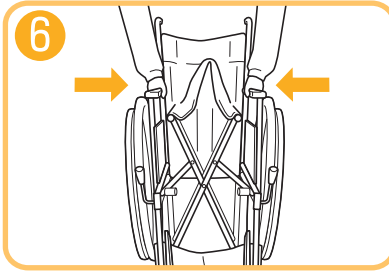
④ 縮み止めを解除します。



⑤ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。

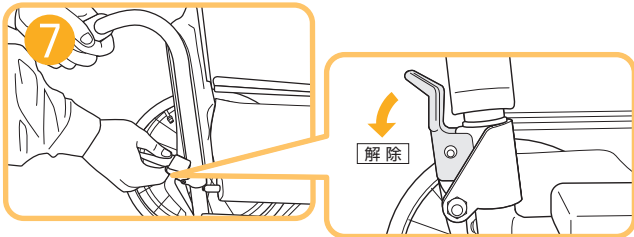


⑥ 左右のアームサポートを持ち内側にたたみます。

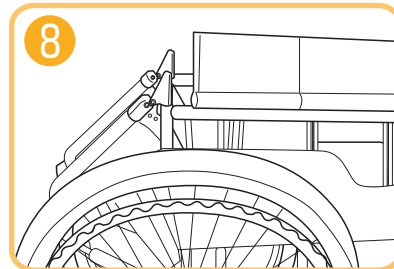


※車のトランクなどに収納する場合は、さらに高さを低く折りたたむことができます。

⑦ 背折れのロックを解除します。



⑧ バックサポートを両側後方に倒します。



⚠ 注意

- 保管する場所には十分注意してください。(P.23参照)
(長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。)

車いすの乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずドラロック(フットブレーキ)をロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。)

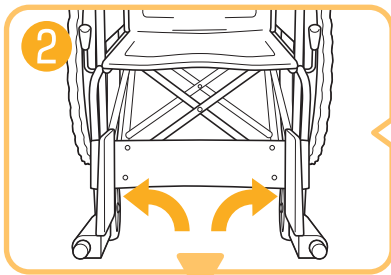


注意

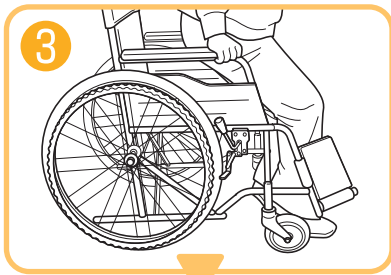
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

乗る時

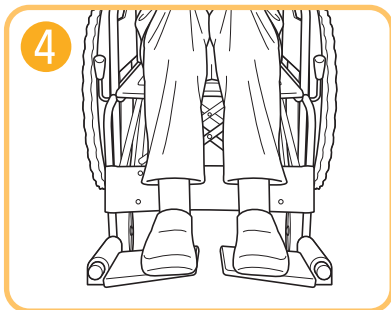
- 2 フットサポートを両側跳ね上げます。



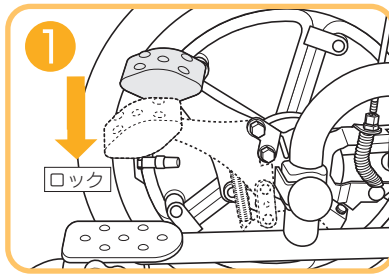
- 3 両手でアームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



- 4 フットサポートに足を乗せます。

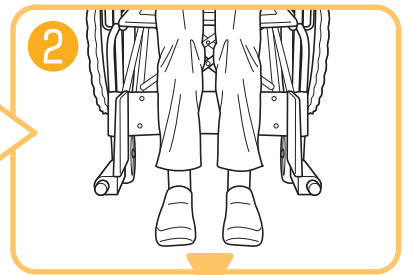


- 1 ドラロック(フットブレーキ)を両側ロックします。



降りる時

- 2 フットサポートを跳ね上げ、足を下ろします。



- 3 両手でアームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



警告

- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)



注意

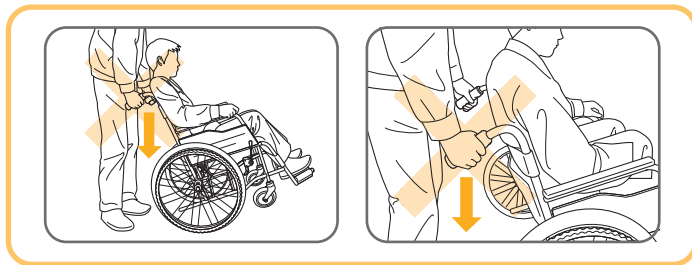
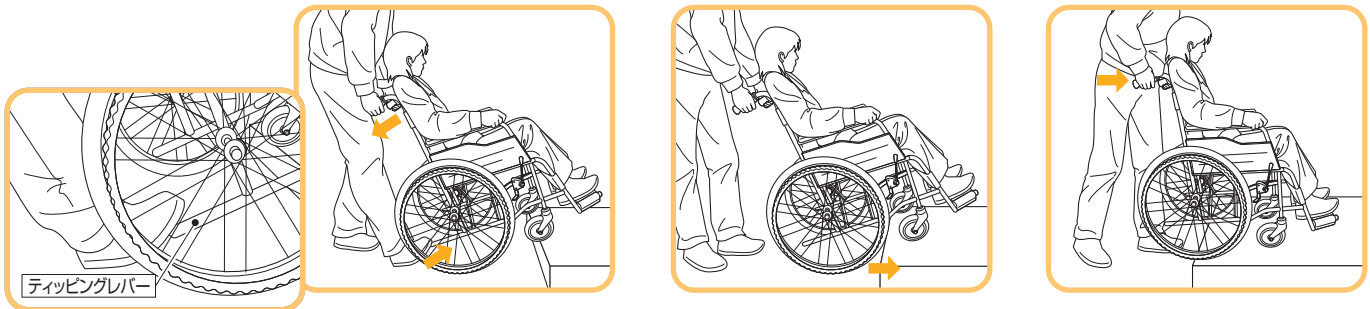
- ブレーキペダルを操作するときは、ブレーキペダルの近くに足や物がないか確認してから操作してください。
ペダルと地面で足を挟まれたり、正しくブレーキが掛からない・解除できない原因となります。

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

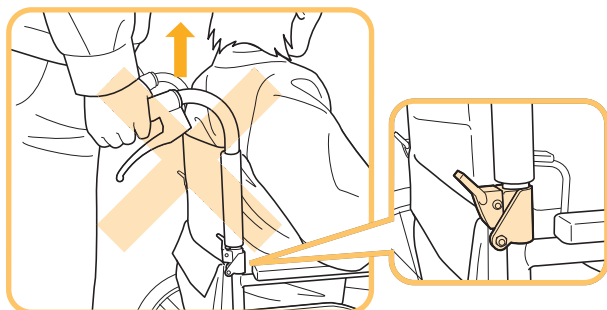
- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・凸凹道
- ・電車への乗車、降車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、キャスト(前輪)を段差に乗せてから、主輪を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



⚠ 注意

- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒・転落して事故の原因となります。)



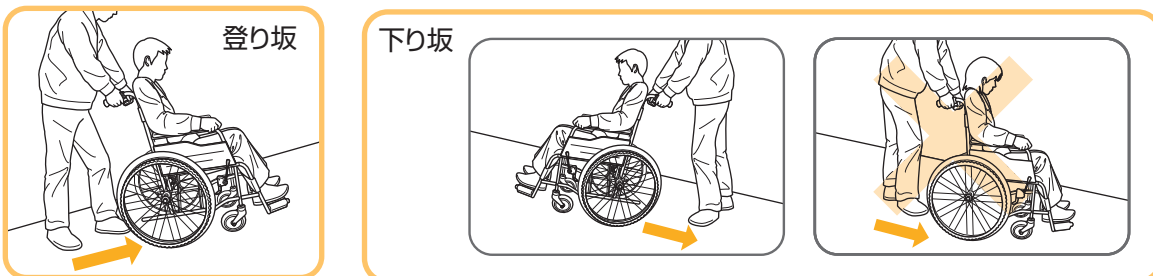
⚠ 注意

- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

⚠ 注意

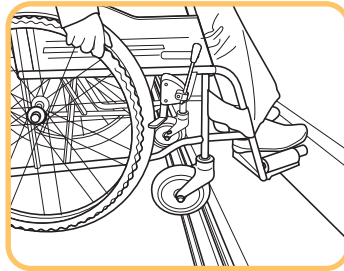
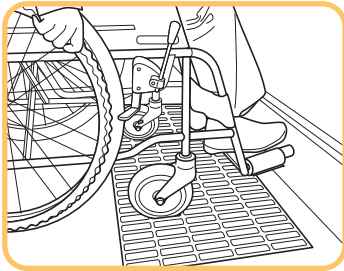
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。)

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。



⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者の方は下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。
(前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故の原因となります。)



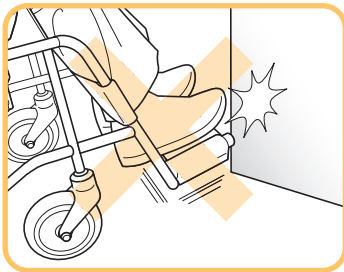
警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいでください。
(車輪が溝にはまって、転倒・転落事故の原因となります。)

注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先や、サイドブレーキペダルが障害物に当たらないように、確認して走行してください。

注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。



注意

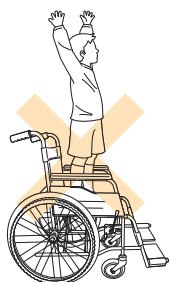
- 必ず固定されている場所を持ってください。
ヘッドサポート、アームサポート、フット・レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。

注意

- 車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、使用者の転落には十分注意してください。

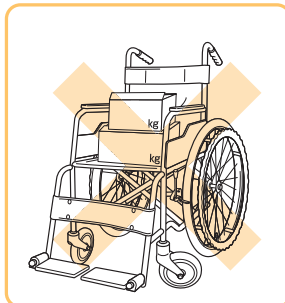
※重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。

その他の注意事項



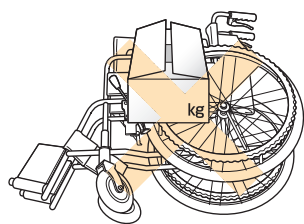
⚠ 注意

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。(転倒・転落事故等の原因となります。)



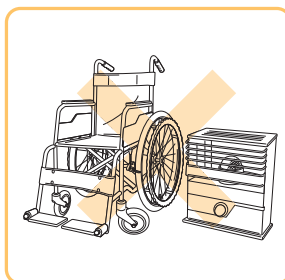
⚠ 注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。



⚠ 注意

- 車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)



⚠ 注意

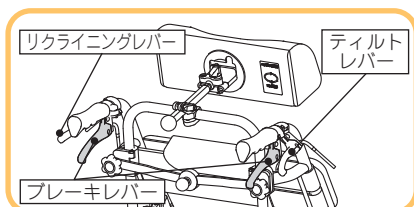
- 火気の近くに置かないでください。(シートが燃え火災の原因となります。)

各部機能の使用法

ブレーキの使用法

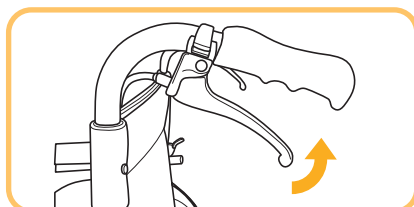
制動用ブレーキ 介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

- レバーを握るとブレーキがかかります。 ● レバーを離すと解除します。



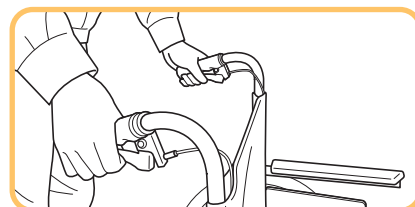
⚠ 注意

- リクライニングレバー、ティルトレバーと間違えないように注意してください。(不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。)



⚠ 注意

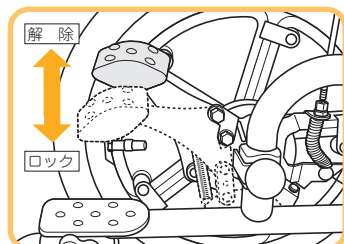
- 急ブレーキ、急発進、急旋回をかけないでください。(使用者が前方へ転倒・転落する恐れがあります。)



⚠ 注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。(バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

駐車用ブレーキ:ドラロック(フットブレーキ)



使用者が乗り降りする時、車いすが動かないようにするために、介助者の方がご使用ください。

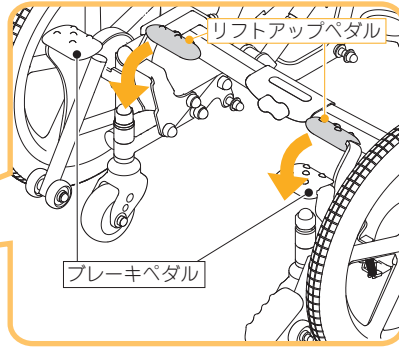
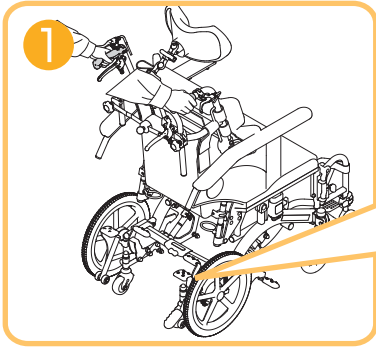
ドラム式介助ブレーキ(制動用ブレーキ)にフットブレーキを一体化したブレーキです。ドラム部分でロックするのでブレーキの制動力がタイヤの空気圧に影響されません。

- ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
- 上げるとロックが解除されます。

リフトアップの操作方法

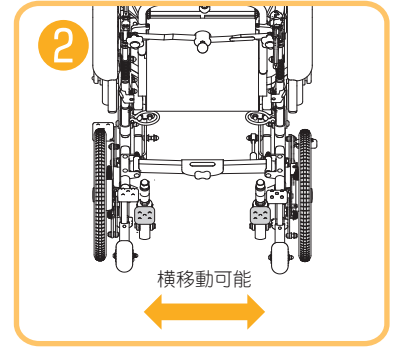
●主輪を浮かせることで、真横にも移動することができます。ベッドなどへの移乗の際に、何度も切り返す必要がありません。また、狭いスペースでも小回りが効きます。

① グリップを持ち、車いすが動かないようにしながら、リフトアップペダルを踏み込みます。

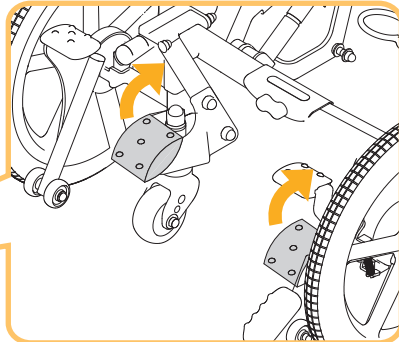
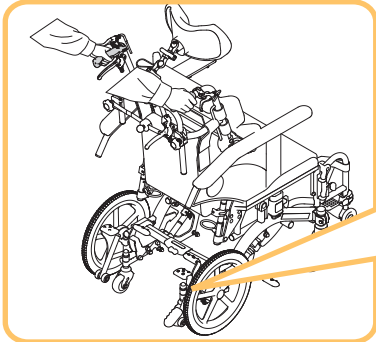


※ブレーキペダルと間違えないよう注意してください。

② 主輪が浮いたことを確認し、移動してください。



戻す時も、車いすが動かないように、グリップを持ち、ペダルを足の甲で上げてください。



⚠ 注意

●必ず両側をリフトアップしてください。片側だけリフトアップすると、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。

⚠ 注意

●リフトアップした状態で段差の乗り越えや凹凸のある路面の走行をしないでください。必ず平坦な路面で、短距離の移動にご使用ください。

⚠ 注意

●リフトアップ操作時には車いすから手を離さないようにしてください。
(車椅子が動き危険です。)

⚠ 注意

●リフトアップした場合には、ドラロック(フットブレーキ)がロックされていても、主輪が浮いているため車いすが動きます。人の乗せ降ろしなどの場合には、リフトアップを戻し車いすが動かないことを確認してから行ってください。

⚠ 注意

●ブレーキペダルとリフトアップペダルを間違えないように注意してください。
(リフトアップ操作時にはブレーキが効かず車いすが動きます。)

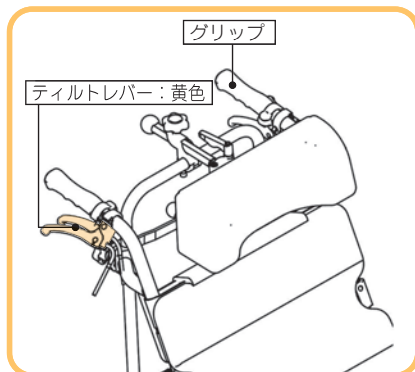
⚠ 注意

●アームサポートを持って車いすを移動しないでください。
(アームサポートが破損する原因になります。)

ティルトレバーとリクライニングの方法

ティルトレバーの使いかた

- ティルトレバー(右側のレバー)を操作することにより、座面の角度を調整します。座面は最大30°まで傾きます。ティルト操作のときは、使用者が安心できるように、「倒します」「起こします」と一声かけてください。



- ①ティルトレバーを握りながらグリップを持って、座面を倒したり起こしたりして調整できます。
- ②ティルトレバーを離すと、その角度で固定されます。

警告

- ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。(ティルトレバーを握った瞬間、使用者の体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、使用者に不安を与えてしまいます。)

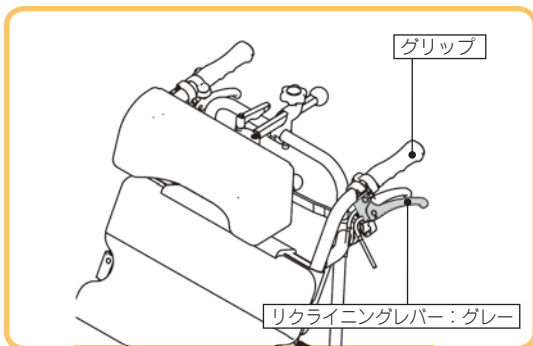
警告

- ティルト操作のときは、必ずフットブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてから行ってください。(車いすが動き、危険です。)

リクライニングレバーの使いかた

- リクライニングレバー(左側のレバー)を操作することにより、バックサポートの角度を無段階で調整します。バックサポートは座面に対して90~125°の範囲で調整できます。リクライニング操作のときは、使用者が安心できるように、「倒します」「起こします」と一声かけてください。

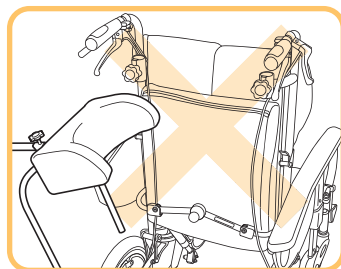
※本製品は、使用者が車いすに乗っている状態での安全性を基準に開発されております。そのため、人が乗っていない状態では、操作はかなり重くなりますので、ご了承ください。



- ①リクライニングレバーを握りながらグリップを持って、背もたれを倒したり起こしたりして無段階で調整できます。
- ②リクライニングレバーを離すと、その角度で固定されます。

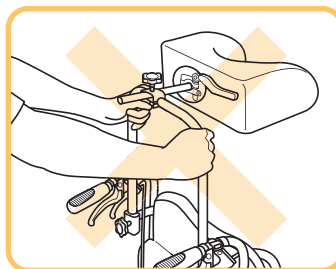
警告

- リクライニング操作のときは、必ずフットブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてから行ってください。(車いすが動き、危険です。)



警告

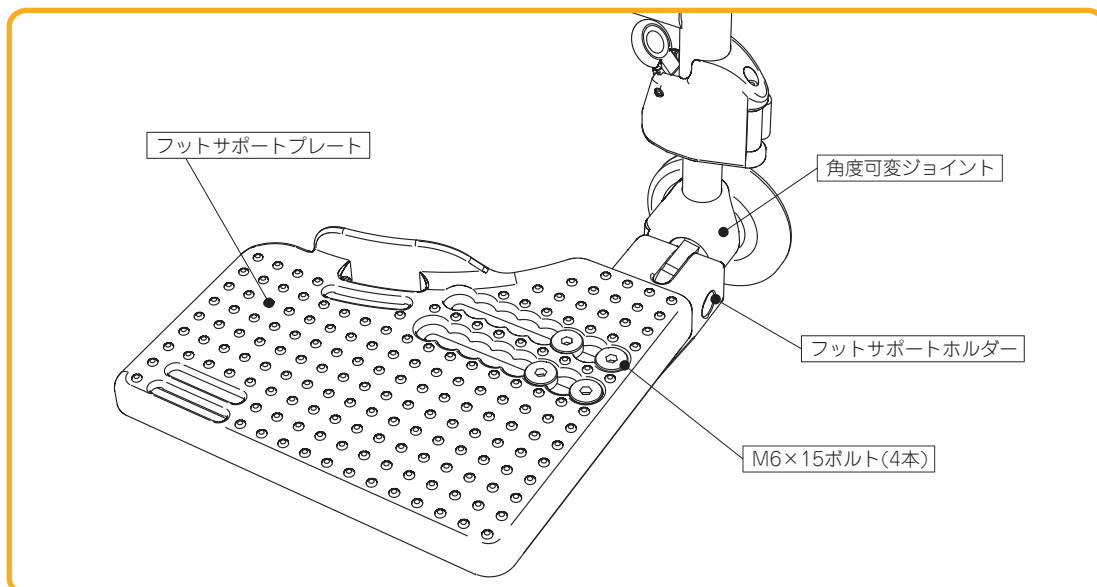
- ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。(転倒・転落事故の原因となり大変危険です。また、フレームの強度が低下し、車いす破損の原因となります。)



注意

- リクライニング車いすの縮み止め・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。(外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

各部名称



前後調整方法

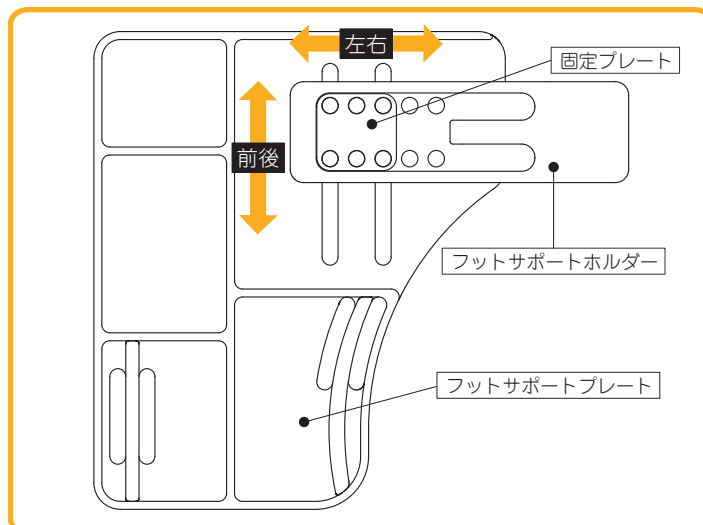
- 1 M6×15ボルト(4本)を緩めます。
- 2 フットサポートプレートを前後にスライドさせます。
※ボルト頭部が溝にはまる位置にします。
- 3 M6×15ボルト(4本)を締結します。

※適正トルク 3Nm

左右調整方法

- 1 M6×15ボルト(4本)を取り外します。
※固定プレートが外れますので紛失にご注意ください。
- 2 フットサポートホルダーの穴位置を任意の位置にずらします。
- 3 M6×15ボルト(4本)を締結します。

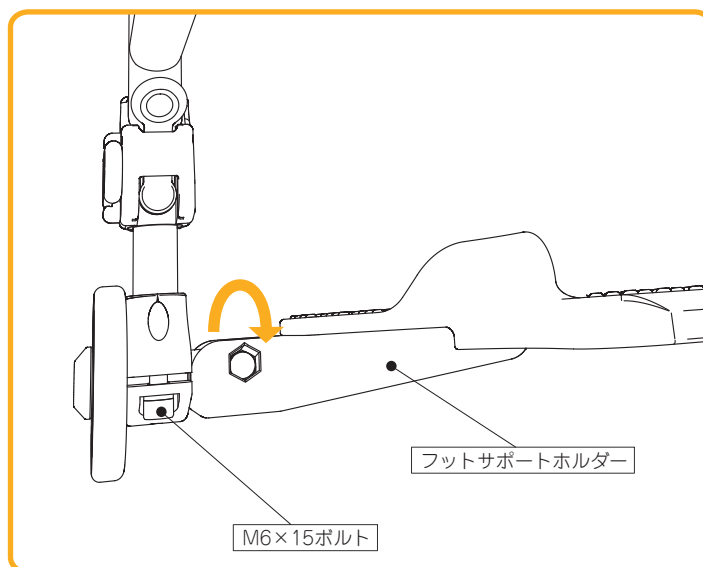
※適正トルク 3Nm



角度調整方法

- 1 M6×15ボルト(1本)を緩めます。
- 2 フットサポートプレートを任意の角度に設定します。
- 3 M6×15ボルト(1本)を締結します。

※適正トルク 10Nm



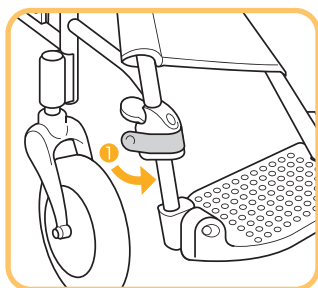
警告

●ボルトは必ず締めてください。
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

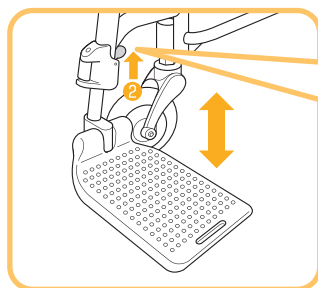
フットサポートの高さ調整

〈高さ（長さ）の調整〉

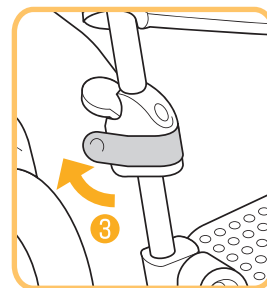
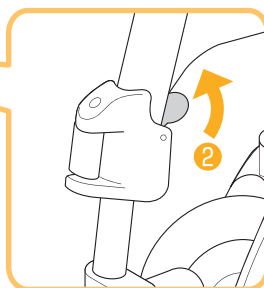
① 回転レバーを回転させ、安全ロックを解除します。



② プッシュレバーを押しながら高さを上下に調節します。



③ 高さを調節し、プッシュレバーが戻っていることを確認して回転レバーを元の位置に戻してロックします。



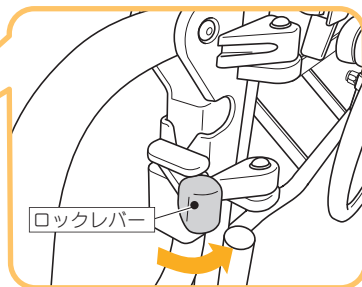
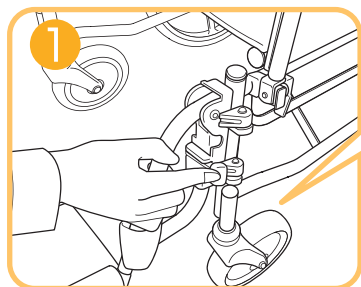
⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。（フットサポートが脱落し事故の原因になります。）

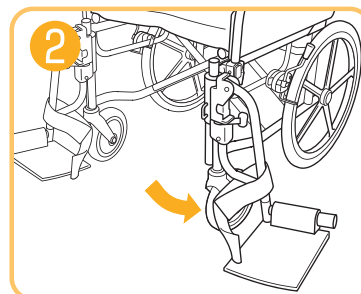
フット・レッグサポートスイングアウト

● フット・レッグサポートをスイングアウト（外開き）したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽で安全に行えます。

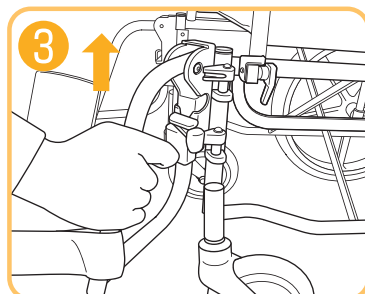
① ロックレバーを押し、ロックを解除します。



② レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③ レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 警告

- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。（足を乗せたとき、フット・レッグサポートが外れて足をケガする原因となります。）

⚠ 注意

- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手を挟まないように注意してください。

● スイングアウトを戻すときは、ロックレバーを押したまま内側に回転させ、最後にロックレバーを離し、ロックされているか確認してください。

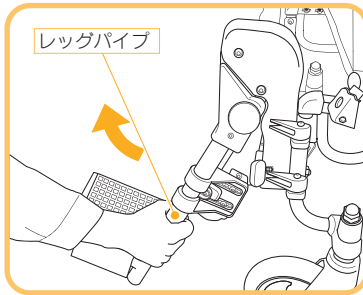
フット・レッグサポート スイングアウト&エレベータリング

- 使用者の身体状況に応じて、フット・レッグサポートをエレベータリング(上下方向への角度調整)することができます。また、スイングアウトも可能です。

エレベータリングの操作方法(足角度の調整方法)

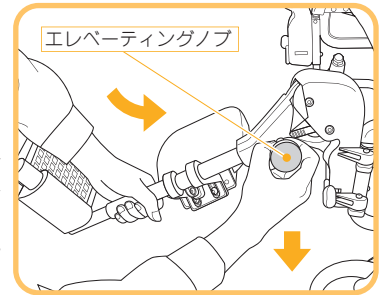
上げる場合

レッグパイプを持ち、そのまま引き上げます。適当な位置になったら少し下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



下げる場合

レッグパイプを片手で持ち、もう一方の手でエレベータリングノブを手前へ引きます。(荷重で急激に下がらないようご注意ください。) 適当な位置になったらエレベータリングノブを離し、少しレッグパイプを下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



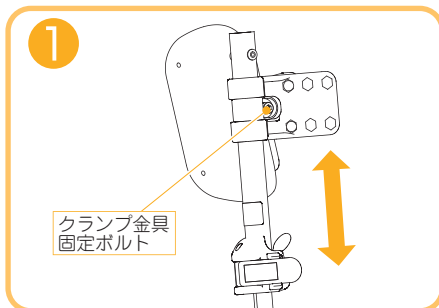
⚠ 注意

- ユニット本体と、エレベータリング角度変更部の間で手・指等を挟まないようにしてください。必ずレッグパイプを持ち、支えながら操作してください。特に、使用者の足を乗せたままの状態で行うときは注意して操作してください。

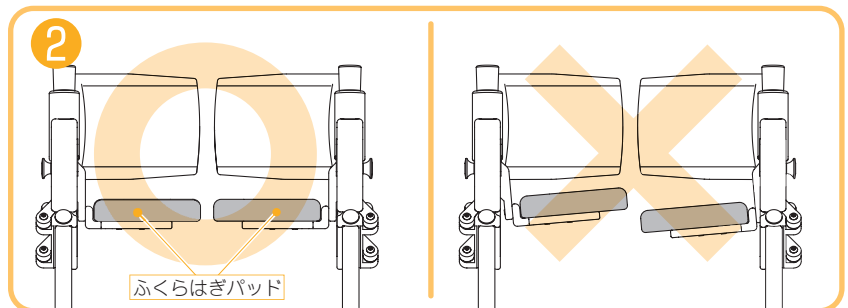
ふくらはぎパッドの位置調整

使用工具 ・対辺5mm六角レンチ

- ① クランプ金具固定ボルトを緩め、位置を調整します。位置が決まったらボルトを軽く締めてください。



- ② ふくらはぎパッドを使用状態の位置に戻し、回転が止まる位置を確認してください。回転が止まる位置は下図のように左右のふくらはぎパッドが揃うように調整してください。調整ができれば①のボルトを締めてください。 ※適正トルク 10Nm



ふくらはぎパッド位置調整部による調整

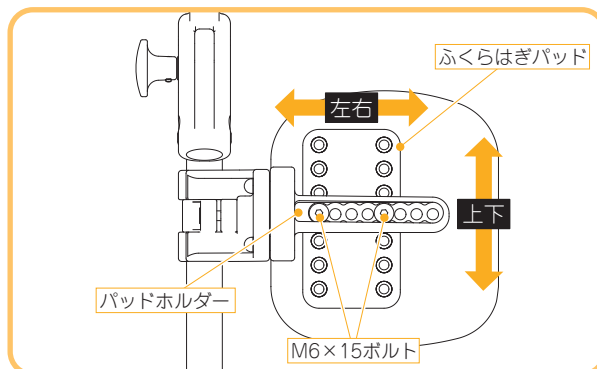
使用工具

- ・対辺4mm六角レンチ
- ・対辺5mm六角レンチ

上下左右調整方法

M6×15ボルト(2本)を外します。
※ふくらはぎパッドが外れますのでご注意ください。
上下方向はふくらはぎパッドの穴位置、左右方向はパッドホルダーの穴位置で決定し、任意の穴位置でボルトを締結します。

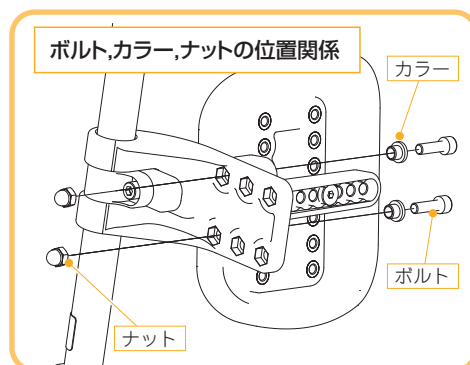
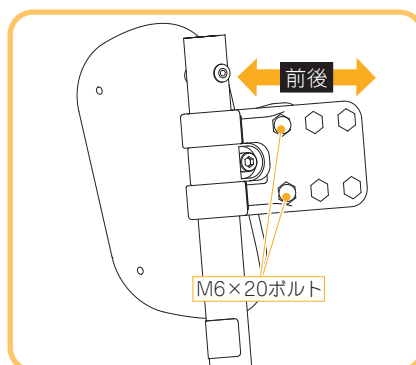
※適正トルク 6Nm



前後調整方法

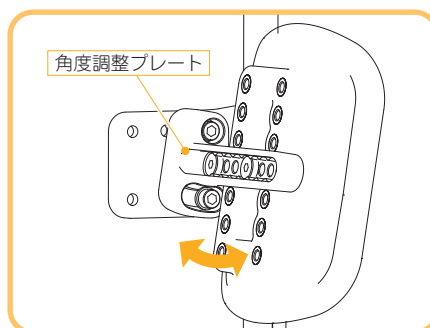
M6×20ボルト(2本)を外します。
※カラー・ナットも外れますので紛失しないようご注意ください。
任意の穴位置でボルト、ナット、カラーをはめて締結します。

※適正トルク 6Nm



角度自動調整

角度調整プレート位置が可変し、脚に合わせてふくらはぎパッドの角度の調整が自然に行えます。



アームサポートの使用法

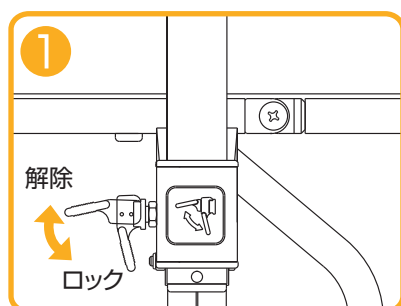
アームサポートの高さ調節の仕方

- 使用者の身体状況にあわせてアームサポートの高さを9段階で調節することができます。
* さらに、座シートと同じ高さまで下げることができるので、車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。

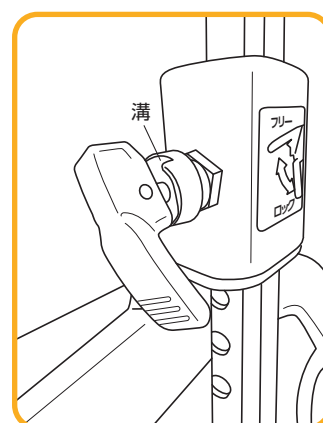
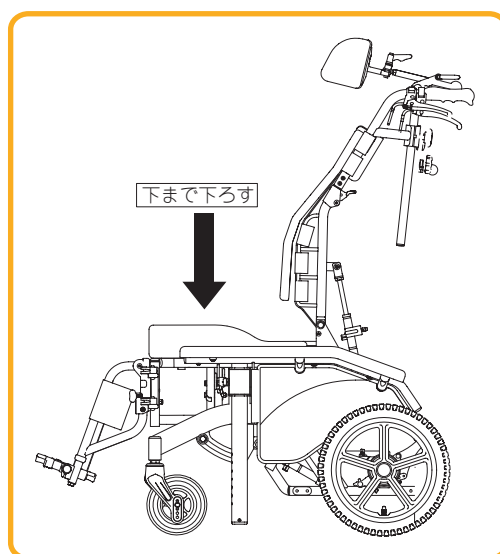
- ① セーフティロックのレバーを上げ、ロックを解除してください。

〈乗り降りの際〉

セーフティロックを①のように解除し、アームサポートを最も下まで下ろします。



- ② アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティロックのレバーを倒してロックしてください。



このような状態ではロックが掛かっていません。ロックレバーを回転させ、溝にはめてください。

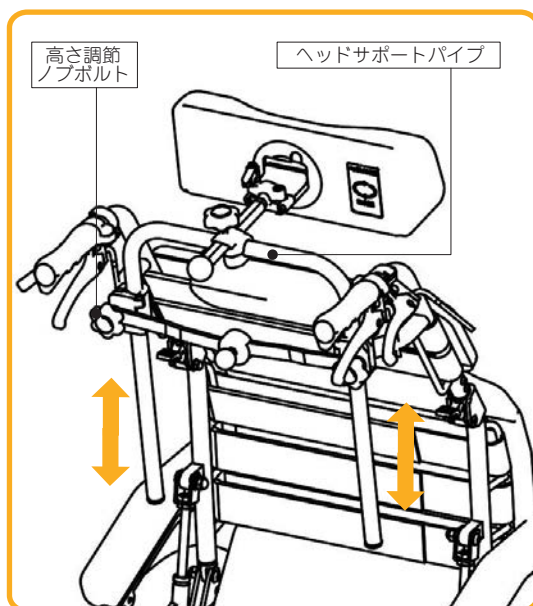
警告

セーフティロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされていません。(アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。)

注意

- アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指を挟まないようにご注意ください。

ヘッドサポートの使用法



マクらの高さ調整の仕方

- マクらの高さを調整します。マクラは首と頭を支える形状になっています。ヘッドサポートパイプを支えながら操作してください。

 - ① 高さ調整ノブボルトを緩めてください。(左右共)
 - ② ヘッドサポートパイプを両手で持ち、使用者に合った高さに調整してください。
 - ③ 高さが決まったところで、高さ調整ノブボルトを完全に締めてください。

確認 調整後は、高さ調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。

注意

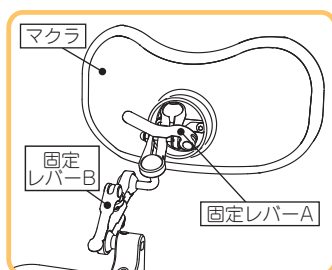
- マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。(フレームの破損の原因となります。)

マクラの前後左右&角度調整

- 使用者の身体状況に合わせて、マクラの前後左右位置や角度を調整します。

〈各部名称〉

スネークヘッドサポート

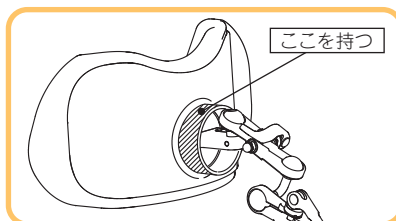


〈ご使用方法〉

- 使用者の身体状況に合わせて、マクラの前後・左右・角度を調整することができます。
次の方法を組合わせて、最適な位置でご使用ください。

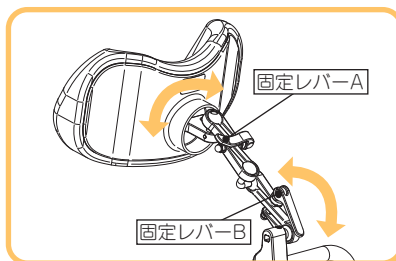
スネークヘッドサポート

スネークヘッドサポートを操作するときは、右図の斜線部(///)を持って、操作してください。



〈スネークヘッドサポートの動かし方〉

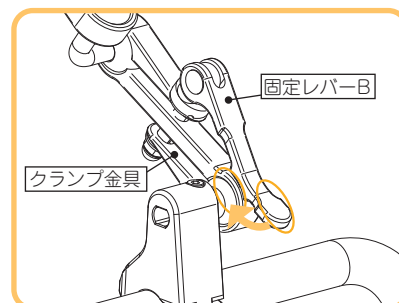
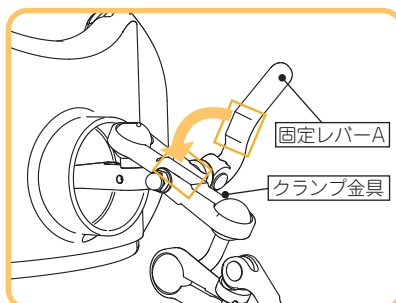
- 両方のレバーを同時に緩めると、マクラは上下・左右・前後に自由に動かせるようになります。
- 固定レバー-Aを緩めると、主に左右方向にマクラが動きます。
- 固定レバー-Bを緩めると、主に上下方向にマクラが動きます。



位置を調整した後は、確実に固定レバーをロック位置に戻してください。

固定レバー-Aは、内側の平らな部分が、クランプ金具の側面平面部に接触するまでロックしてください。

固定レバー-Bは、内側の曲線部分が、クランプ金具支点部の曲線部分に沿うようにロックしてください。



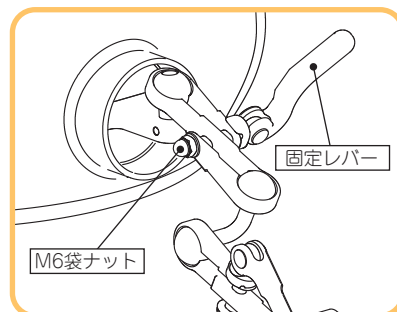
<クランプ力の調整>

使用工具 ・対辺10mmスパナ

スネークヘッドサポートのクランプ部はお使いになられるにつれ、徐々にロック力が低下します。通常にお使いいただく中で、ロック力の低下をお感じになりましたら、下記の方法で調整ができます。

- ① 固定レバーのロックを解除します。
- ② 固定レバーを手で押さえながら、対辺10mmスパナでM6袋ナットを締めます。
- ③ 固定レバーをロックし、ヘッドサポートのロック具合を確認します。
- ④ ロックが固すぎる場合には、固定レバーを手で押さえながら、対辺10mmスパナでM6袋ナットを緩めます。

※対辺10mmスパナはサービス工具に含まれておりません。



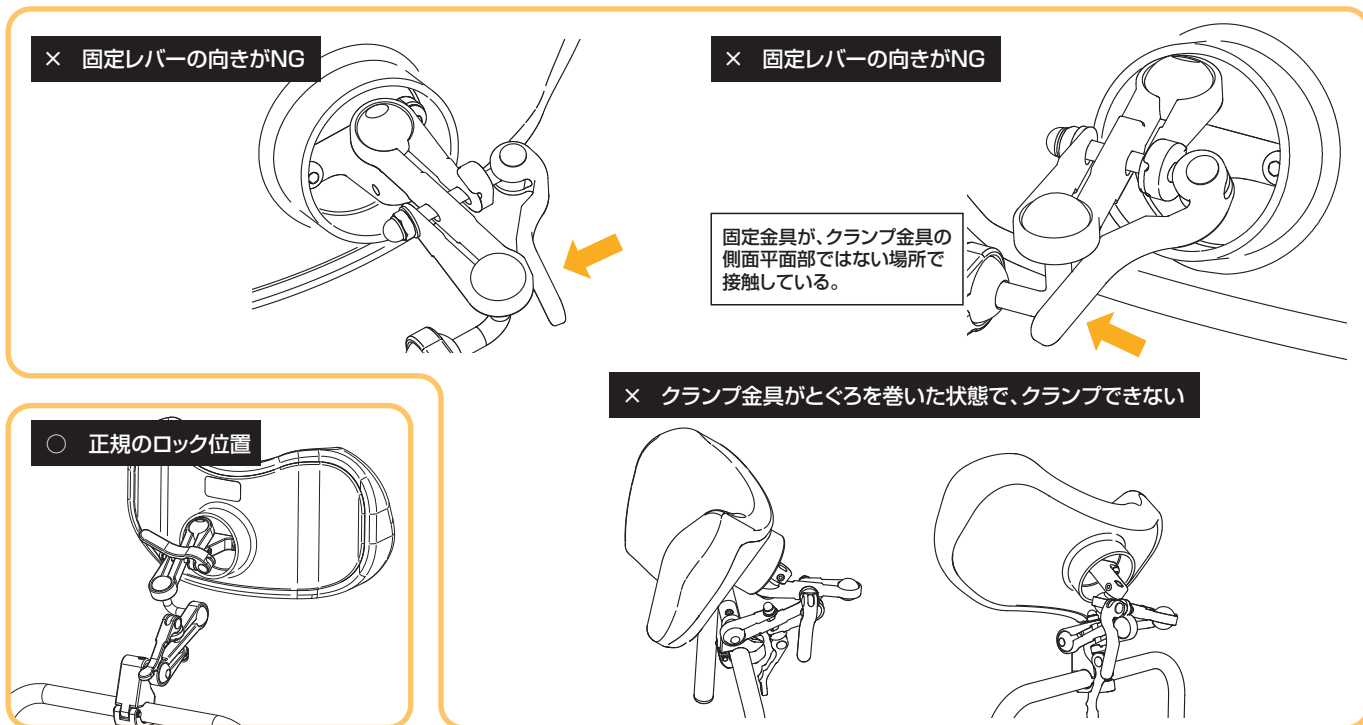
⚠ 注意

- ロックが固すぎると固定レバーやクランプ金具が破損する場合があります。適切にご調整ください。

⚠ 注意

- 必ず使用者が乗っていない状態で調整してください。

●下図のような状態は、ロックが不十分になりますので適切な状態に戻してからご使用ください。



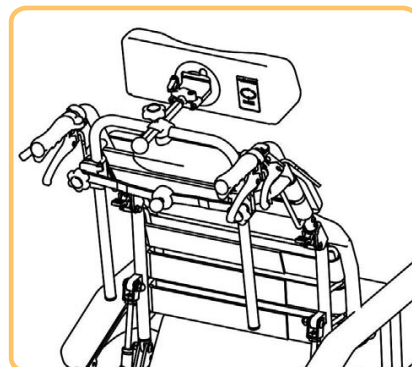
張り調整シート

- ベルトの張り具合によって、使用者の身体状況に合わせ、シートの張りを調整します。

背シート

- ① 背シート裏側(ポケット側)をめくってください。
- ② マジックベルトをはがし、適度な位置に調整し、再びマジックベルトを貼り合わせてください。

※3Dモデルは左右独立の張り調整ベルトになります。



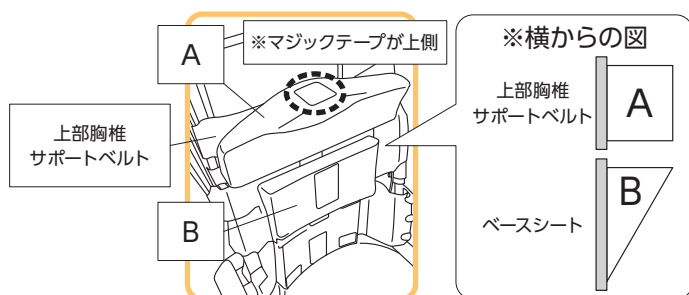
⚠ 注意

- 糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
(接着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

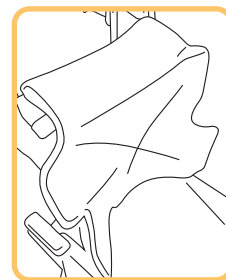
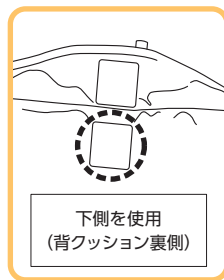
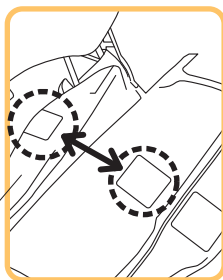
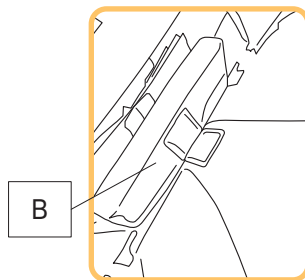
上部胸椎サポートパッド・三角パッド

- 上部胸椎サポートパッド(以下、Aとする)、三角パッド(以下、Bとする)を取り付けます。

- ① 上部胸椎サポートベルトにAを取り付けます。 (※マジックテープがついている方が上側です)
- ② 背張り調整ベースシートにBを取り付けます。 (※黒メスマジックテープがついている方がベースシート側です)

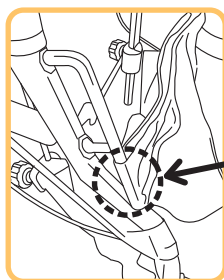


- ③ 背クッションを取り付けます。

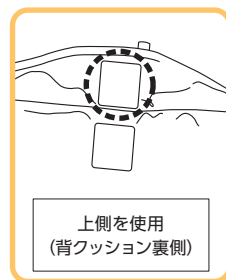
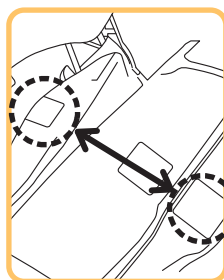
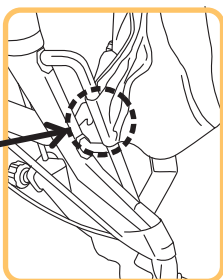


- 上部胸椎サポートベルトの高さ調整(出荷時は、下側取り付けになっています)

- ① サポートベルトを上に通してください。
(背クッションは上側のマジックベルトを使用します。)



【出荷時】



⚠ 注意

- 上部胸椎サポートベルトを取りつける際は、ワイヤーを一緒に固定しないように取り付けてください。
不意にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。

転倒防止

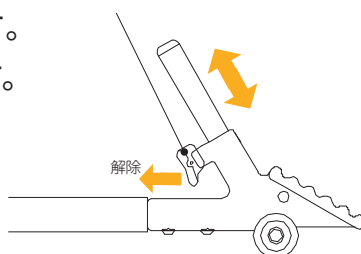
●バックサポートを後方へリクライニングした場合等に車いすが後方へ倒れないようにします。

●車いすが後方へ転倒することを防ぎます。転倒防止調整レバー

転倒防止の高さは4段階調整できます。

調整は転倒防止調整レバーにて行います。

- ①転倒防止調整レバーを解除します。
- ②転倒防止を適当な位置にします。
- ③転倒防止調整レバーをロック位置にします。



警告

- 転倒防止から「カチッ」と音がして、確実にロックされている事を確認してください。

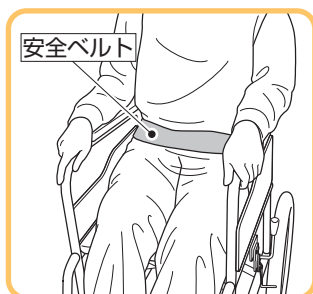
車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。

(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店までご相談ください。)

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



注意

- 安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

注意

- マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。(接着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。)

車いすのお手入れの方法

- 清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色・劣化の原因となります。ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤにはひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃)
- 光線(紫外線)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど)。

- 車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤ・キャスト輪の劣化・ひび割れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ネジの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- 主輪・キャスト(前輪)の変形
- 制動用ブレーキ・フットブレーキの効き具合

シートのお手入れの仕方

- シートの生地には、ポリエステルとビニールレザー(マクラ)を使用しています。それぞれ、お手入れのしかたが異なりますので、ご注意ください。

ポリエステル(座のみ)

- ※シート類を洗うときは、次のことに注意してください。
- 座シートの内部ウレタンを外してから洗濯してください。
- 洗濯マークの表示を参照して洗濯してください。
- オスマジックテープ(手で触った場合硬い方)は、洗濯中に他のシートを傷つけてしまいます。オスマジックテープには、当て布をするか、ネットに入れてください。

ポリエステル(背シート)／ビニールレザー

- 洗濯機のご使用は避けてください。
 - 固くしぼった布で軽く拭いてください。毎日お手入れしていただくと長く清潔に使っていただけます。
- ※汚れがひどい場合、次のことに注意してください。
- うすめた中性洗剤で拭き、空拭きをして陰干ししてください。
アルコールやベンジン等の溶剤や漂白剤は使用しないでください。
特に油(頭、手アカ等を含む)汚れは簡単に落ちないため、汚れたらすぐに拭きとるようにしてください。

保管場所

- 次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるところ
- 直射日光が当たるところ
- 湿気の多いところ
- 高温になるところ(45度以上)
- 炎天下

車いす点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日				
		点検者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
主輪(後輪)	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折りたたみ					
操作部	可動部のがたつき					
	ボルト・ナットの緩み					
連結部	がたつき					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						

廃棄方法

- ・お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・廃棄してください。
- ・地球環境のため、放置はしないでください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
走行操作が重い	・主輪・キャスト(前輪)に髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤが、ねじれていませんか	ワイヤのねじれを調整してください
	・ワイヤの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
駐車ブレーキが効かない	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
	・リフトアップしていませんか	リフトアップした場合はブレーキが効きません リフトアップを解除してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤのねじれ、引っ掛かりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っ掛かりを直してください
	・使用者の身体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください
ティルト操作ができない	・ワイヤのねじれ、引っ掛かりがありませんか	ワイヤのねじれ、引っ掛かりを直してください
	・使用者の身体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください

空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

空気圧管理不要タイヤ

〈ハイブリッドタイヤ〉



安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、主輪は回転しないか。
- ・損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気圧管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

アフターサービスについて

1. 保証書

保証書は、この取扱説明書の裏表紙についておりますので、必ず「販売店・お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

販売店名・お買い上げ日の記入がない場合は、品番・販売店・お買い上げ日が確認できるように、製品をお買い上げの領収書などを保証書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼されるとき

取扱説明書の「もし、こんなトラブルが発生したときは」（25ページ参照）に従って調べてください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または弊社製品の修理受付窓口であるパラテクノコールセンター（下記参照）までご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベルの番号（ラベルの貼付位置は1ページ参照）
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 施設名、お名前、ご住所および電話番号

■消耗部品について

タイヤ・シート・ブレーキ・制動用ブレーキ用ワイヤー・ブレーキゴムなどは消耗部品です。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているとき

修理により使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。

3. 部品の最低保有年数は

弊社ではこの車いすの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間を製造打ち切り後8年としております。

4. アフターサービスについてご不明な場合

お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

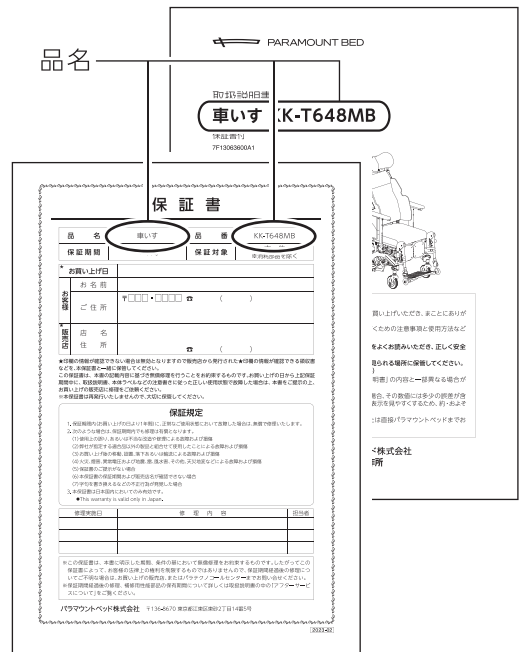
パラテクノコールセンター ☎ 0120-54-8639

受付時間：平日8:00～18:00／土・日・祝日9:00～17:00（年始は休業いたします）

【パラテクノ株式会社について】弊社製品の修理や保守点検などの各種サービスを実施する会社です。

パラマウントベッド株式会社

本社	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎(03)3648-1111(大代)
東京支店	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎(03)3648-1171(代)
札幌支店	〒060-0062	札幌市中央区南2条西13丁目318番地11	☎(011)271-1181(代)
仙台支店	〒984-0015	仙台市若林区卸町2丁目3番地の3	☎(022)239-5211(代)
さいたま支店	〒336-0967	さいたま市緑区美園3丁目23番1	☎(048)878-0100(代)
横浜支店	〒194-0004	東京都町田市鶴間5丁目3番33号	☎(042)795-8800(代)
名古屋支店	〒461-0001	名古屋市東区泉1丁目20番17号	☎(052)963-0600(代)
大阪支店	〒550-0001	大阪市西区土佐堀2丁目3番33号	☎(06)6443-8791(代)
高松営業所	〒761-8031	高松市郷東町223番1	☎(087)881-8900(代)
広島支店	〒733-0011	広島市西区横川町3丁目8番5号	☎(082)293-1311(代)
福岡支店	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号	☎(092)461-1131(代)



保証書

品名	車いす	品番	KK-T648MB
保証期間	1年間	保証対象	本体 ※消耗部品を除く

★ お買い上げ日		
お客様	お名前	
	ご住所	〒□□□ - □□□□ ☎ ()
★ 販売店	店名	
	住所	☎ ()

★印欄の情報が確認できない場合は無効となりますので販売店から発行された★印欄の情報が確認できる領収書などを、本保証書と一緒に保管してください。

この保証書は、本書の記載内容に基づき無償修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルなどの注意書きに従った正しい使用状態で故障した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

※本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

保証規定

- 保証期間内（お買い上げの日より1年間）に、正常なご使用状態において故障した場合は、無償で修理いたします。
- 次のような場合は、保証期間内でも修理は有償となります。
 - 使用上の誤り、あるいは不当な改造や修理による故障および損傷
 - 弊社が指定する適合品以外の製品と組合せて使用したことによる故障および損傷
 - お買い上げ後の移動、設置、落下あるいは輸送による故障および損傷
 - 火災、煙害、異常電圧および地震、雷、風水害、その他、天災地変などによる故障および損傷
 - 保証書のご提示がない場合
 - 本保証書の保証期間および販売店名が確認できない場合
 - 字句を書き換えるなどの不正行為が発覚した場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - This warranty is valid only in Japan.

修理実施日	修理内容	担当者

※この保証書は、本書に明示した期間、条件の基において無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

パラマウントベッド株式会社 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号